

2021/09/03 19:00-20:30 zoom

区民版子ども・子育て会議 第二回

「世田谷にはおでかけひろばがある!!!～地域の身近な場所での子育て支援を考える～」

今日はおでかけひろばがあるよ、というのをテーマにしました。

地域別懇談会の10年前からやっていた時からおでかけひろばがあるのですが、テーマにしたのは今回が初。

小さいレベルでたくさんあるのが世田谷の特徴。特に地域の人たちが担っているところも多い。地域のボランティアな活動が事業化したり法人格をとったり。乳幼児にかかわる人たちが増えて、雇用を生んだ面もある。区立保育園や大型のステーションがあったり、児童館も拠点事業の一部ととらえられている。世田谷はリーダー研修など実践者向けの研修をしている貴重な自治体だが、お互いに知る機会が少ない。周りの人たちが知っているわけでもない。私たちがどうPRしていくのかもですが、なんでこれをやっているのか、どうして世田谷に必要なのか、どういう風に紹介してもらうかなど作戦会議も含めて皆さんと話していけたらいいと思います。

ブレイクアウトルームでは立場を超えてお互いにたくさんお話してください。

区民版はフラットな立場での参加なので、区の人もたくさんいますが要望の場ではなく、情報交換・対話の場としたいです。お互いを尊重して話し合いしていけたらと思います。

#### ■世田谷区子ども若者部 柳沢部長

柳沢です。区役所から参加しています。おでかけひろばをテーマということで、コロナ禍で運営側も子育て中の保護者、お子さんもいろんな形で大変なところ。工夫や困りごとなども聞かせていただければと思います。様々なアイデアも聞ければと参加しています。よろしくをお願いします。

まつだ) おでかけひろばは世田谷区の仕組みの場で、民間で居場所として開いている人たちも参加してくれています。子ども家庭課の中西課長から今の状況や取り組みをお話してください。

#### ■世田谷区 子ども家庭課 中西課長

9月1日号の区報1面に「子育て応援～地域みんなで子育て応援～」が載りました。

おでかけひろばは親子が気軽に立ち寄って親子同士が相互に交流を行い、子育て中の親の孤立感と不安感を緩和して、子どもの健やかな育ちを支援することを目的としている。

スタッフが子育てに関する相談にのったり、地域の子育て関連情報を発信する機能もある。おでかけひろばによっては、広さとか雰囲気は様々なので、子育てステーションの中にある

とても広いひろばから、一戸建ての中にあるようなアットホームなひろば、保育園に併設されているひろば、プレーパークのひろばなど多種多様。様々な場所で各団体が工夫をこらしながら、いろいろ運営されているところ。ひろばの数もかなり増えてきている。平成18年の3月に子ども子育て総合支援センターに「かもちゃんひろば」を開設してから次々新しいのができて、現在42か所あり、そのうち17か所で一時預かり事業のホッとスティ、5か所で子どもを預けながら仕事ができるワークスペースひろば型というのをやっている。各地域に1か所ずつ合計5か所のひろばで利用者支援事業も行っていて、子育て支援コーディネーターが利用者目線に立って寄り添い型支援を行ったり、子育て団体や関係機関と連携して地域の子育て支援のネットワークづくりにも続く支援も行っています。

ひろばの利用の傾向ですが、0才と1才の利用がやはりすごく多く、次に2歳、3歳と年齢を追うごとに少なくなっていくが、保育園とか幼稚園に入園する前の乳幼児が多く毎年4月、保育園とか入園の時期はおでかけひろばの利用は一時的に減る傾向はあるが、夏休みの時期は0才とか1才の兄弟と一緒に久しぶりに来るというのもあると現場から聞いている。利用する保護者は圧倒的にお母さんが多いが、子育てステーションのおでかけひろばは、お父さんのご利用も一定数ありますし、直近だと今年の7月で全体の1割ほどが父親のご利用があります。おでかけひろばは、妊婦さんなどのプレママ・プレパパもご利用いただける施設ですが、残念ながらあまり利用されていない状況でもあります。区としては世田谷版ネウボラの推進の観点からも、妊娠期から地域の子育てに関する社会資源を知ってもらうことが大事だと考えているので、妊婦さんの利用をどうすればすすめられるのかは課題だと感じている。

次に、おでかけひろばのイベントですが、毎月いろいろなイベントを工夫して様々な団体さんがやってくださいます。ベビーマッサージとか栄養士さんによる離乳食の講座、お話し会、手遊び会など各ひろばで様々な企画をやっている。イベントを通して、普段おでかけひろばを使ったことないお父さんや妊婦さんに足を運んでもらうためにサタデーパパとか、プレパパママの会を開催しているおでかけひろばもあります。

コロナ禍でのおでかけひろばを皆さん、ご苦労されていると思いますが、昨年度から引き続き1年以上のコロナの状況によりおでかけひろばの利用は、おうちにいることが可能な保護者には自粛をお願いしつつ、マスクの着用とか手洗いの感染予防とか、現場での受容人数の制限をかけてもらいながら運営しているところです。具体的にどういった制限をかけているかというと、利用の時間で区切って予約制にしたり、短時間の利用にしてもらったり、入場制限を設けたり、消毒の時間を設けたりなど各ひろばそれぞれの状況に応じて感染対策をして、今、運用しているところです。従来であれば、お弁当を持ってきてもらって皆で食べながらだとかおでかけひろばの中でできたのですが、今は感染防止のために食事は控

えてもらっているという状況にあります。利用人数が制限されている影響で、昨年度のおでかけひろばの利用は、その前の年の元年度と比較すると約半分になっている状況です。コロナ禍でのこの状況ですが、先日ちょうどおでかけひろばリーダー研修をして、それぞれのおでかけひろばさんからは人数制限による影響として、親同士の交流が少なくなっているとか、せっかく来てくれた方をお断りわりしなくてはいけないとか、常連さんばかりで予約が埋まってしまい新規の方が利用しづらくなっているとか2才児の利用が減ったという声もありました。おでかけひろばで食事ができない影響としては、他のお子さんが食事をしている姿を見て、参考にする機会がなくなったというお話とか、食事をしている姿が見られないので、離乳食のアドバイスもしづらいという声もありました。オンラインでの開催もしているのですが、参加人数がなかなか伸びない、というご意見もあったと聞いています。本来、おでかけひろばは親子同士で交流していただく場ではあるが、長引くコロナの影響で交流がしづらくなっている今にあります。この状況でおでかけひろばで何ができるのか、可能性についても皆さんのご意見を聞かせてもらえればな、と思っています。本日、皆さんで自由なフリートークでいろいろご意見を聞かせていただければと思います。

松田) ありがとうございます。今の世田谷のリアル状況をわかりやすくお話しいただいて、うんうん、と現場の人は思ったのではないかなと思います。

おでかけひろばという仕組みがそもそも世田谷ではこんな感じですが、初めて聞く方もいるので、どんなものなのか、少し私からもおでかけひろばのことをお話しさせていただけたらと思います。

<パワポ資料>

#### 【地域子育て支援拠点事業・利用者支援事業の経緯について】

おでかけひろばはどうやってできたのか？

私が初めて常設の居場所を作ったのは21年前の平成12年。

地域子育て支援事業というのは、保育園の相談事業から始まっている。保育所に子育て支援しましょう、といって、地域の中でモデルを作って居場所が開設されて、保育所からの流れが全国的にあります。全国の自治体運営の6割くらいは地域の保育所がやっている。

平成14年に「つどいの広場事業創設」と書いてあるのですが、私たちがロビングして作ってもらった制度です。厚労省の少子化対策室というのができて、その人が私たちがやっている地域の人たちが開いた場をみて、補助金つけなさいよ、と言ってできたのが「つどいの広場事業」です。これは区の話ではなく、国の制度です。地域でこういうことを思いながら、実践していた人たちが、私もそれだ、と言ってどんどん「ひろば」にしました。「つどいの広場事業」の前の年に愛子様が生まれて、一番最初のモデル事業ひろばは「愛子様よろこび

のひろば」だったというエピソードもあるんです。その後に保育所がやっているような「子育て支援センター」と「つどいの広場」というのが機能が一緒であると、統合されて「地域子育て支援拠点事業」という名前になりました。私たちは地域側から始めたので、ゲリラ軍が正規軍になったと皆に言われたり。当時はひろば型とかセンター型という名前がありましたが、児童福祉法に位置付けられたのが平成21年。それを拠点事業、社会福祉事業になったと。利用者支援事業は今、世田谷では地域子育て支援コーディネーターと言っていますが、実はそれも平成15年に1回ついたんです。総合コーディネート事業。これも皆で意見を出して厚労省に意見書を出した記憶があります。一瞬ついたが、一瞬で消えた。再トライしたのが平成27年。その後に書いてあるのは、拠点事業の中に地域強化型という形で、拠点事業の中にひろばの3人目をおこうという運動のなかで利用者支援事業が実はできた。新制度、子ども子育て支援法という形で、消費税の財源で子育てのところに財源がついたタイミングで拠点事業と強化型という形で最初ついたものを別事業にして、利用者支援事業ということで新たにたててもらったのが利用者支援事業でした。もちろん今、特定型とか母子保健型とかもあります。この基本型は、ひろばとセットだった。ひろばに友軍として、ちょっと外に出向いていくような人たち、パーソナルにサポートする人たちをイメージしてつくられたのがコーディネーターさんでした。なので、この2つの事業がすごく実践から始まったということと、地域に根ざしてきたというところに背景があります。

#### <地域子育て支援拠点事業>

4つの基本事業というのがあります。

子育て支援親子の

- ・交流の場の提供
- ・交流の促進
- ・情報と援助の実施
- ・相談援助の実施

子育てに関すること、子育て支援に関することということで、地域の人たちに子育て支援について理解してもらうような講座とか取り組みもこの基本事業の中に入っています。

#### <保育園と幼稚園の年齢別利用者数及び割合>

世田谷も0、1が中心みたいな話がありましたが、保育園や幼稚園、認定こども園に所属していない人たちが主なターゲットとして、日中過ごす場でもありました。保育所の利用率とかも上がってきて、この後課題でも出されると思いますが、すぐに復帰する人たちにとって地域につながるツールとしてはなかなかひろばが身近ではなくなっているので、今は全国的にも土日に保育園に行っていない時間に親子がつながったりするとか、働いているという意味では、お父さんも含めて（まだ1割）つながれるように拠点も在宅の保育園、幼稚園に行っていない人たちだけのものじゃないの、とやはりユニバーサルなものにしましょうよと

いう動きが切にあがっているところです。実態としては、土曜日も出勤とか関わる人が難しかったり、場所の関係だったりということで少しずつの実践に世田谷もなっています。シングルマザーとかなかなか来れない、それでいいのか？という話もできています。

私が荒く計算したのですが、国で相談件数が20万件を超えています。相談対応の中で、虐待ケースの27,814件が一時保護所対応。その16.7%が措置（施設入所3889件、里親委託が760件）親子分離されているケースを引くと、8割以上在宅支援。私たちが思っている在宅は保育園や幼稚園、子ども園に行かない子どもというイメージですが、社会的用語の分野では、在宅支援と言ったら、通報されているが家に戻されている人たちも在宅支援。実際在宅で子育てされている人たちは、見守りとか家庭指導とか言われているが、どういうケアがされているのかな、というとなかなか難しい。これは18歳までのデータなので、乳幼児となるとまた違うと思うが私たちが地域の中で支援する対象は、もう少し幅広に考えなきゃいけないのでは、という時代が来ているな、と実感してください。里親さんも地域の中で子育てされているので、ひろばの対象者じゃない、とかももちろん出ているし、そういう意味では、もしかしたら自分で「189」かけちゃったり、かけて相談した人とか、もしくは泣き声通報されている人とか、そういう事も考えると子育てひろば、おでかけひろばが担う役割は意外に大切ではないか、その人たちが素知らぬ顔して来れるのはすごくいいこと。名前が付いた相談とか、あなたいらっしゃいという場所ではなく、ふらりと子どもと遊ばせに来ました、と来れる場所。すごい重要な役割を果たせるのではないかと私はすごく思っているところ。

とはいえ、世田谷は今や人口92万人、年間7,000人ぐらい生まれていて、途方もなく大きい街なので、地名各ぐらいに、それだったらそこ行くといいよと言ってもらえるような場所が必要なのではないかと思う。ほかの自治体とか人口6万人ぐらいのところ、丁寧にやっているところが多い中、92万人の街でどうやってこういう親子を支えるの？という時にはやはり制度とか仕組みももちろん大事だけど、そこに紐づいてインフォーマルな人たちにインフォーマルな支援、おせっかいな人たちがひろばとつながって、地域の中でやる、地域子育て支援拠点なので、地域にある子育ての支援拠点でもあるけど、地域が子育てすることを支援する場所でもあるわけです。地域まるごとで子どもを見守るために拠点がハブになってできること、ということはすごく考えないといけないのかな、と思ったりします。

<子ども・子育てにかかる相談支援・見守りのネットワーク図～世田谷区第2期子ども計画素案より～>

世田谷区は第2期子ども計画という枠組みをつくってくれて、こういうのも絵に描いた餅という人もいますが、私は餅を絵に描け、と思っていて、ここに書かれたことは推進されていく、という安心感がある。世田谷はこんな形でおでかけひろばがしっかりはいつておりま

すが、こんな形で連携しながら見守りしましょう、となっているので、そんなときのやはり地域のハブになるのではないかと考えています。ハレとケがあるとしたら、ケです。日常なんです。イベントではなく、毎日ある。今は予約で制限もされているけど、気兼ねなくゆっくり話せる。これは私が好きな写真ですが、大人が4人しゃべっているのは面白いと思いませんか？ここに子どもはいない。子どもは違うところでゆっくり過ごさせている、ひろばの中で。誰がスタッフで、誰が利用で、誰がボランティアかわからない。フラットな関係性もひろばの魅力かなと思ったりします。

#### <地域子育て支援拠点（一般型）の活動>

実は地域子育て支援拠点の中は4つの基本事業のほかに、地域の子育て支援活動も展開をはかるための取り組み、一時預かり、ほっとステイをやっているところが多いのですが、他に地域支援という形で、地域の人たちと連携してやるような取り組みだったり、地域の文化とか季節行事とか伝統を大切にというのを伝授してつないでいくような場だったり、地域の子育て支援の発掘育成とか、ボランティアさんとかそういうチーム、インフォーマルな支援とかサポートみたいなことを生んでいくようなことだったり、利用していない家庭に訪問したり、利用支援というのもここには書いてあります。すごい可能性を秘めた事業である、ということです。

#### <地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業の創設>

これは地域共生型ということで、今度は多世代とか、分野を超えて今は、地域の中で相談体制を作っていきたいという風になっているのですが、実はおでかけひろば地域づくりという枠組の中で、ノミネートされている事業です。

#### <令和3年度予算：重層的支援体制整備事業交付金の創設について>

こんな感じで、高齢子ども分野で、利用者支援事業と地域子育て支援拠点事業がノミネートされているので、分野を超えた枠組みのところでも連携が今後必要になってきますし、世田谷の中でも実は利用者支援の一つに結構呼び出されて一緒に会議に入ったりします。実はおでかけひろば地域づくりというところで、しっかりと事業が入っているので、もしかすると違う子どものことはさっぱりわからないという分野の人たちとも一緒にやらなくてはいけない時代が来ている。これはモデル事業ということで、世田谷も手を挙げているので、実施するということで、どういう風にすすめていくのかまだ発表されてはいないのですが、子どものところにしっかり入っている枠組みなんだということを、ぜひ皆さんも知っていただけたらと思っています。

#### <利用者調査 「拠点に求めること」>

これは実は渡辺敬一郎先生の日本福祉大学の学生さんたちが調査した結果なんですが、利

用者調査なので、拠点につながっている人たちで、その人たちの求めていることってすごいんです。必要な情報を提供してほしい、どんなことが大切にされているのかとか、こんな取り組みしてるとか日常、イベントの告知だけではなく、その中で行われていることをもっと知りたいということなのではないかなと思っています。今、予約制で来れなかったり、怖くて来れなかったりする人もいるけど、来たような気持ちでひろばを体験できるそういう情報提供も求められているし、土曜日また休日の開所のニーズも高いですね。一時ほっとステイのニーズ、開所日数とか時間延長してくれないかな、という話も本当にあります。やはり夕方の利用とかもこれから考えたりすることもあるのかな、とかいろいろあります。

#### <生活困難と制度・支援サービスの利用：支援サービスの利用状況>

世田谷の子どもの生活実態調査をもらってきたのですが、日本はいろんな立場の人たちが利用できるといいな、と。おでかけひろばが自分が対象かわからない人とか、そもそも知らなかった人はまだまだいる、2割ぐらいいるそうですけど。やっぱりおでかけひろばの利用はネットワークの入り口だな、と思うデータがたくさんあったので、子どもの生活実態調査の分析みたいなのをぜひ後で読んでいただくといいかなと思います。

生活利用意向はあったが、利用しなかった保護者の割合は「一般層×ふたり親」が最も低く、「生活困難者×ひとり親」が最も高い。サービスを利用していない親はやっぱり近所付き合いが活発でなく、困ったときに相談できる相手がいない割合が相対的に高い傾向にある。保護者同士のネットワーク形成の入り口ということで、困ってからつながりをつくるのではなく、日常でつながっている必要性。利用経験がある人より利用経験がない人の方が支援につながりにくい。逆に言えば、なかなかひろばにつながりにくかったり、来ていいのかな、と思っている人だったり、お金がかかるんでしょと思っていたり、いろんな人たちがいると思うんです。そういう人たちにつながってもらうことで、おでかけひろばだけでなく、いろんな素敵な人間関係だけでなく、困った時だけでなく、日常からつながっている人は SOS を出せる。特におでかけひろばでは顕著だったという事で、私たちはまだやることはいっぱいあるんだ〜とデータからも教えてもらった。

外側からみたおでかけひろばの枠組みを聞いてもらいました。

この後グループに分かれる前に少しおでかけひろばを実践している人たちに、おでかけひろばのエピソードとか、こういう部分での役割を担えているなという実感などを話してもらいたい。

#### おでかけひろば一空)

丁度5年目にはいったところ。いろんなことを経験しながらスタッフともども成長させていただいた。開所した当初いろんなことがあって、大変な方との出会いもあったり。

ネウボラというなかでいろんな方やコーディネーターにも助けられて、いろんな面を見せてもらいながら、一人の方をサポートしてきた。支えられてここまで来た5年間。サポートしてきた方も元気になられて、ひろばの仲間たちと楽しくやれるようになったのは本当に良かったことだと思っている。

最近はや予約制になって、来れない方、回数が限られていて日数を増やしてほしいとか開所時間の延長とか要望は出ていますが、逆に今まで行かなかったひろばにも足を延ばしている、新たな出会いもある、いろんなところでの出会い、他のひろばスタッフの方との出会いとか、他でも広がっているなどマイナスばかりではない良さも最近実感したところ。

まつだ) つながりという意味では、オンラインプログラムなど違う世界にも出会っていますね。一人のご家庭を長く見守りサポートするという話もいただきました。しんどさもあるけど、こういう場所を頼りながらなんとかやってこれたという人もだんだん増えてきたのではないかな、と思います。

きぬたまの家)

端っこにあるというせいもあるが、最初は知る人ぞ知るという感じでしたが、初めから預かりだけはいつも満員だった。それに満足してはいけないよね、みたいな話になってひろばにたどり着かない人たちに多く来てもらえるようなひろばになってくにはどうしたらいいんだろうかみたいなことを考え始めて、コロナの前からそういうのは意識していて、いろんな方来てくれるようになってよかったね、というところへコロナになったので、すごい残念だと思っていた。立地的には中心地にあるわけではないということを生かして、今も予約制をとってない。なんとかやりくりしながらやっているのですが、そのおかげで初回で来られる方結構多く、赤ちゃんを連れてお母さん方から「明日来てもいいですか？」という感じで来てもらったり、若いスタッフがすごくトライしてくれるので、ちがった層につながっていくことがわかって、自分たちの活動に満足しててはいけないよね、ということが再確認できた。

外遊びが私たちは強いので、外と中の融合ということで、ひろばを卒園しても来れたり、相談を受けたり、ちっちゃいお子さんたちのあこがれで見てもらえたりする関係がいいな、と思っています。

まつだ) 外遊びのはらっぱがあるから。外遊びだけでなく、常設の場ができたことによる変化があることも感じられる

まーぶるはホッとステイ：ハッピーセパレーションという一時あずかりをしています。ひろばでやっている良さなどあればお伝えください。

まーぶる)

今日もちょうど姉妹で預かりしていて、下の子は泣いちゃって、泣いちゃって人見知りだったので、保育士一人では無理だったので、ひろば利用者のママたちが一緒にフォローして下さって、ひろば利用者さんの親子が一緒になって、私がおんぶしている後ろで大丈夫だよと背中をトントンして下さったりとか、みんなすごく気にかけてくださる、皆で一緒にやっているという感じで、ひろばで一時預かりをやっている良さだなと本当に今日実感したところで、すごく良かったなと思ったエピソードでした。

まつだ) 預けてなくても、預けるとこんな風に関わってもらえるんだな、というのがみえて私もそういう機会を作ってみようかな、なんて背中を押してもらえたり、大事なサポートだなと思います。一時預かりもその練習になっているかなと思います。

元利用者さんの声も聞いてみたい。利用者からはじまっている人・・・

Uさん)

私はひろばになる前の amigo にすごく助けってもらって、実家も遠くて頼る人も誰もいないとか、子育ても全然今まで子どもにふれたこともない人生だったのに急に自分のところに子どもが来て、どう生活していったらいいのか、本当に右も左もわからない時に、一緒にひろばにいたお母さんたちに助けられてたりして、今は逆にそれをお返ししているなというところです。

Sさん)

おでかけひろば BOCCO がスタートした年に長女が生まれて最初5か月ぐらいで連れて行って、やはりすごく子育てがしんどかったです。それでこういうところがあると知って、通うようになった。最初はママ友とか苦手かなと思いながら通ったのですが、本当に助けられて毎日通うようになりました。下の子が幼稚園にはいるタイミングで声かけていただいたのもあって、本当にお返ししたいなと思ってスタッフをしています。

まつだ) ありがとうございます。ひろばはしんどかったというところを共有できる場というところがある気がします。ひろばの中で何をしているのかと思われていた方もいるかもしれません。

今からブレイクアウトをさせていただけたらと思います。

利用者に聞いてみたいこととか課題とか気になっている事とか、おでかけひろばに提案したい人もいるかもしれませんが、グループにわかれてワイワイ話ができたらと思います。

<グループタイム 20分>

10グループできていたので、シェアをお願いします。

### 1 グループ)

ぶらんこの方と利用されている方が話していましたが、私の感想です。

子どもを育てることで幸福度が増すというのは、ひろばに出会ったことで、地域の人とかもつながりができた。日本はなかなか共助の部分が薄いのが、共助を育成してくれるのがひろばの利用だったり、そこでの出会いなのではないかというので、ひろばの人には尊敬と感謝の念しかありません、という。ご本人がお伝えした方がもっと良いかと思いますが代わりに報告させていただきました。

まつだ) 共助と育みができるとか新しい価値ですね。ありがとうございます。

### 2 グループ)

ここは立場の違う方が集まっていて、Mさんがいらっしゃったので、もっとITを活用して、という話も出て、コロナ禍でSNSをどうやって活用してますか?という話になりました。一番気になるのはオンラインにもリアルにもつながっていない、困っているお母さんがいるところというのが、スーパーや公園の手前、保育園の帰りとかに子どもが駄々こねて困り果てているお母さんみたいな人だから、「私、社会福祉士なんだけど・・・」とか怪しくない名称を伝えて、こういうところあるよというのを伝えたり。フランスには公園おばさんという人がいると伺ったので、世田谷にもこういう公園おばさんが公園の手前でカードを持っていたり、スーパーの前にいるというのいいアイデアですよ。

まつだ) つまりナンパということね。地に足ついたことも、ちょっと必要かもしれないですね。面白い～。

### 3 グループ)

自分の経験から皆、話を始めて、ひろばにはおせっかいなおばちゃんがいっぱいいて、つなげてくれるというところで、児童館ともつながりをもってお互いに紹介しあうということをしてきた。ひろばにはそれぞれ特徴がある。コロナになって人数が少なくなったとはいえ、行政がいろいろな催しをなくしている中で、ひろばが開いているので、この状況でつなぎを継続できたのは唯一ひろばだけだったのではないかということでした。コロナでママ同士のつながりがマスクをしたり、話してはいけないという中で、つながりが最近薄くなっている気がする。そこで自己紹介タイムというのを設けているところがあるようで、「今、はまっていること」とか自分の話をする時間を設けたことで、つながりが深くなったと。他のひろばでも自分の話をするとなるとすごく盛り上がるし、子どもの話しかしていない1年の中で、自分のキャリアの話であるとか、自分の得意なこととかを話すことで、自分のことも語るというすごく大事な時間を作ることができるんじゃないか、それを役立てて、また次

に応じられるのではないかという話がありました。

まつだ) 確かにいっぱい来ていた時より、ママトークというか、それぞれのグループでトークするというグループワークに近い取り組みも本当は大事なのかもしれませんね。

#### 4 グループ)

このグループでは行政の方から「他の団体とつながっているのはどんなきっかけで？」という投げかけをいただいて話をしたという感じでした。商店街の中にあるひろばの方は地縁のある方が、地縁のある場所でやっけて、子育て支援関係とどうやってつながっていくか考えているところが多かったのですが、子育てに関係のない企業とか、子育てに興味がないだろう人たちをスポンサーとかも含めて考えているという話だったり、子育てに関係なさそうにみえて、そういうつなげ方があるんだな、と今まで見てなかったさらに先につながるのではないか、というヒントをもらいました。

利用さんもスタッフもそうだけど、その体験をつないでいくということがすごく大事で、体験のつながりもそうだし、私たちがつながることで、知り合いになって、私たちが顔がつながるといって、つながりをだいにしていっていいね、ということで最後しめました。

まつだ) 地域の中で子どものいる暮らしというところに着目されるということだと思えます。ちょうど「さわやか福祉財団」が何千人のフォーラムをやっていたんですが山際さんという霊長類研究所の所長だったという人が言ったのは、大切なのは一緒に共有する体験するとか、そういう時間とか空間を共有することがやはり強いんだみたいなことをおっしゃっていて、地域の中でもそういうつながりがあるということで、ありがとうございました。

#### 5 グループ)

ポイントは「場」。今、ここでバーチャルの場で話しているけど、自分の家から5分以内でちょっとしたたまり場みたいなのがあって、そこにいと誰かがいて、ちょっと会って、今こんなことがあった、あそこでこんなことがあったと話し合える場というのが絶対に必要。世田谷区にはそういう場がない。ロンドンにはそういう場がたくさんある。そういう場のことをパブとか酒を飲む話ではないが、そういうところに周辺のエリアの方が集まって、あんなきやいけないとかの話が出てきて、行政に言ったり、自分たちで解決しちゃおうというような場というのが町ごとに1丁目とか2丁目とかで、場を作らなきゃいけないと思っている。公共施設を率先して使うべきですが、民間の施設でも民間の方が町ごとにいる。それを標準にしていけば、かなりいろんな話ができるし、ハードの人間もセットになって、要は区が一丸となって、場というのは世田谷区が本気になれば探せばある。それを活用して、まずは場を確保する。人材も民間の方がメインになると思うが、誰かがいつもいて、ちょっと行ってみたら、話せるというのが標準化されるというのが多分私たちの目指している街の

姿ではないか。今日は子育ての話だが、高齢者も若者もみんなそう。

まつだ) 実は拠点事業はそういうことを狙って細やかに世田谷で「おでかけひろば」を作ってきたというところですよ。まちづくりの視点からも話して下さってありがとうございます。

#### 6グループ)

ひろばの担い手をどう確保していくかという話をしました。子育て当事者の方が仕事としてやっていく方法もあるが、保育園の地域資源としての意味、人材供給元としての意味もあるのではないかと、ということで、例えばベテランの経験者の方とかあるいは保育園で非常勤もやっているけど、ひろばにも関われる人とかいることで、保育園での最新情報も入手できるかもしれないし、子どもに対応するだけでなく、子育て当事者だけではない、違った情報面とかのバックアップにもなれるのではないかと話をした。

まつだ) 保育の専門性を生かして地域の活動の中にも入っていただけるといいのではないかと、ということで、すごい心強いんですね。逆もあると思うんですよ。地域の中でどっぷりやってくださった方が戻ってきて、保護者支援とか園の中のご家庭を支えるみたいなのところに新たな視点をもっていってくださるみたいなことがもしかしてあるかもしれない。防災の観点でも、地域とつながる入り口になるかもしれないですね。

園からの出向とか受け入れますというひろばがあってもいいかも。

#### 7グループ)

今のひろばの利用者さんのことを話していましたが、大きなひろばだったりとかだとキラキラしている方々がいるけど、キラキラしている方々がいるところには若干行きたくない人もいるよね、みたいな話題も出たりもしました。ひろばによって行く層が違っていきのかもしれないという話がでていくけど、そのなかで例えば発達障害の方がいてもお母さんだったりとか、グレーといわれるような方々との出会いの時にサポートしていく必要性も現場の中では出てくるが、そういうところへのフォローだったりとかサポートを気づけば気づくほど、やればやるほど予算の部分ではなかなか捻出できない不安感、これまでのなかではやりづらい部分を予算としてどういう風になっていくのか不安みたいな話がでてきました。

あとは高松での生後3か月の男の子が亡くなった事件ですが、もしあの家の方が身近なおでかけひろばとかがあったら、こういうふうにはならなかったのではないかと色々な話をしているのが印象的でした。

まつだ) 高松も頑張っているんですよ。ひろばもがつつりあって、利用者支援もモデルに近いところでも、なかなか難しい。実は世田谷の隣でも3か月の赤ちゃんをお風呂にしずめちゃった事件がありましたが、この人どうしてたんだろうな、すぐ近くにそういう場所みたいなところがあっても、なかなか無力感がさいなまれます。ほんとにそういうことを通じて、私たちは何をしていたらいいのか、みたいなことを問われるなと思います。育て辛いお子さんを抱えているご家庭とか、ひろばでプログラムという形で少しクローズドにして、プログラムの中からひろばにつなげているような人たちもいます。

#### 8 グループ)

現役の利用者が何を求めているかが見えてきた。産後すぐにコロナで外出できなくてひろばを利用できていない方もいて、やはりちょっと大変な状況なんだなというの。ひろばを利用していたが、コロナでなかなかその後困ったということも、今思えばちゃんと相談できていなかっというの。ひろばスタッフがどういうスタンスで利用者さんと向き合うのかというのをちょっと考えさせられました。今は予約して来るので誰が来るかわかる。コロナ以前は誰が来るのか分からない、来たら十何人もいる、それも今はどうなのかな、という話も出て、利用者が求めているのはつながりが欲しくて来るのかな。SNSをどう活用するのか。利用者がはじめたLINEグループがあって、今では300人くらい入っていて、私ももとも入っているのですが、知らないもの同士も地域の情報交換をしている。まとめるのが好きな利用者さんがいたらお願いするとか声かけたり、ひろばからの地域情報を出したりなどもできる。幅広く情報をだして、選択するのは自由。

まつだ) 利用者さんが多いとリアルですね

#### 9 グループ)

どんな利用者さんがいますか？という話からコロナ禍の話から。困っている利用者さんにひろばをどう知ってもらうか。保健師さんとの連携もだんだん取れてきて、行政からもつながいでもらっている。コーディネーターさんからつないでもらったりと専門の方々が橋渡しをしてくれる事例が増えている。

利用者さんの立場からどんな経験をしたか？中学生のふたごママさんが今は多胎向けの場は増えているが、当時はあまりなかったの、今は支援する側に興味あると。自身の経験を生かして支援側にまわる、自分の特技を生かして子育て支援に回るなど、支援の層があつくなると全体的に支援していけるのでは、と思います。

まつだ) 利用者さんだからこそ、のご自身の仕事を生かしたりとかありますね。それもひろばが常設の拠点があるからの強みかもしれませんね。

10グループ)

長い時間かけて利用者さんをサポートしていくのが大事かな、という話がでました。ひろばでは幅広い世代の方をボランティアとかいろんなところで活用していくことで、利用者さんを支えていくなどいろんな活用できるといいなと思っています。

まつだ) 妊娠中からひろばを知ってもらって、産後初めまして～ではなく来れるといいですね。

話を聞いて話してみたいとか今後のことでアイデアとか意見がある方はどうぞ

★) ひろばつながりで参加している LINE グループで、4人目ご懐妊中の方が相談をだしたときに、そのグループに参加している地域の方が、コーディネーターを紹介してくれてつないでくれた。ひろばやコーディネーターを知らない人が地域の人に紹介してくれるという今朝の嬉しいエピソードでした。

まつだ) 地域の積み重ねでつながっていくのはいいですね。

生まれる前に地域の人からサポート受けたというのは、産後の暮らしも支えてくれるという。ひろばを知らない違う分野や立場の人たちもつながりあっていけると勇気づけられますね。

★) ひろばで数年前からプレママの日を設けているのですが編み物なども企画しながら細々と続けてきた。最近は参加してくれる人も増えてきて、最近生まれました～とひろばに来てくれた人がいて、続けてきて良かったな、と嬉しかったエピソードです。コロナで妊婦さん向けのは自粛も考えたけど、プレママの日ということでカレンダーに載せ続けてきて良かった。

★) 助産師会の方と話す機会があって、他の自治体もご存じの方で、世田谷にはひろばがたくさん、重層的にあるというのが話題になった。接触できない、アウトリーチができないなどいろいろあるけど、世田谷のおでかけひろばの質と量といろんな地域に根付いていて、知らない人がいるとしても「ある」ということが大きいと熱く語られた。

まつだ) どこに行っても安心できる場があるし、ネットワークでできるのがいいですね。

★) ひろばがこれだけたくさんあるなら、就学期の支援もひろばからもひろがっていったらいいなと思っている。生活実態調査でもひろばに来ている人は相談できる人がいたり、近所付き合いが希薄でないという結果がでている。区でも1年生から4年生を主に自主学习、宿

題をみてくださるような活動をしてくださる団体さんに助成を出すようになっている。今日参加しているひろばでもやってくださっているので、もっともっとひろがっていったらいいなと思っています。そういう場ができつつあるんだよ、ということをもしそういう場を必要としている子がいたら、ぜひ教えていただけたらいいなと思います。

まつだ) ホントそれは実感していて、行く場所なくなっちゃな、とか行かなくて自分の気持ちを吐き出せる場であってほしいな、と下の子はひろばで上の子の小学生は宿題もできる学び場に参加させている人たちも出てきて、学び場スタートアップ事業が世田谷区でも始まっていますので、活用しながらひろばでもいいし、こども食堂されている方たちも活用できるといいかな。学童期の居場所ということでは、まだまだ世田谷区の中の地域の力を生かせそうなところだなと。児童館があったり、学童が学校の中にあったりプレーパークもあったり安心と思うけど、新しい取り組みの紹介でした。

次回の区民版は11月11日でテーマは「困窮」です。このテーマで来てもらえたらいいなという方にも声かけをお願いします。区民版のfacebookもあるのでそちらもご覧ください。